



特定非営利活動法人

神戸日独協会会報

BERICHTE DER NPO JAPANISCH-DEUTSCHEN GESELLSCHAFT KOBE

Nr. 400

November 2024

特定非営利活動法人 神戸日独協会
〒651-0085 神戸市中央区八幡通2-1-20
神戸リガッタ・アンド・アスレチック倶楽部1F
TEL/FAX 078-230-8150
E-mail: info@jdg-kobe.org
URL <https://www.jdg-kobe.org/>

NPO JAPANISCH-DEUTSCHE
GESELLSCHAFT KOBE
Bei Kobe Regatta & Athletic Club
In Isogami-Park Hachiman-Dori 2-1-20
Chuo-ku Kobe, Japan 〒651-0085



クリスマス祝賀会のお知らせ

今年も恒例のクリスマス祝賀会を開催します。クリスマス祝賀会は、神戸日独協会の伝統ある最も重要な行事の一つです。

多くの会員にご参加をいただき、この一年の協会での活動を振り返り、楽しい懇談の一夜を過ごしていただきたく、ご案内いたします。

今年はいはるべーとーヴェン第九初演200周年ですので、祝賀会に先立ちシュテファン・トゥルンマー＝フカダ氏(協会常任理事、ウィーン大学音楽学科卒)にべーとーヴェンの第九についてご講演『近くて遠い存在 ～べーとーヴェンの交響曲第9番～』をしていただきます。その後で弊協会「ドイツ歌声サロン」参加者有志による An die Freude (歓喜の歌、べーとーヴェン交響曲第9番第4楽章で歌われる第一主題)を披露していただきます。

祝賀会では一足早くクリスマスの雰囲気を楽しんでいただける多彩なプログラムを用意しています。スライドによる今年一年の協会活動紹介を復活し、例年のようにクリスマスソングを参加者で合唱してクリスマスのお祝いし、お楽しみ抽選会も行います。景品のご提供をお願いいたします。

美味しいお食事や会員との懇談を楽しみ、クリスマスを会員みんなで祝賀しましょう！

ご家族やご友人をお誘いの上、ご参加をお待ちしています。

日時：2024年12月15日(日)17:00～20:00(受付16:45～)

会場：神戸リガッタ・アンド・アスレチック倶楽部ホール

会費：会員及び家族6000円/一般6500円(ケータリング着席ビュッフェ、飲物代は各自)
※当日会場にてお支払いください。

定員：50名 ※事前申込制。定員になり次第締め切らせていただきます。

申込：12月11日(水)までに下記へお申し込みください。

申込先	メール	info@jdg-kobe.org	TEL・FAX	078-230-8150(月～金14～17:00)
-----	-----	--	---------	---------------------------

★抽選会景品をご提供くださる方は、事前にご連絡ください。

Vorweihnachtsfeier

Zeit: Sonntag 15. Dezember 2024 17:00~20:00

17:00 ~ 17:45 Vortrag vom Prof. Dr. Trummer-Fukada

„Beethovens Symphonie Nr. 9 - so nah und doch so fern –,,

18:00 ~ 20:00 Party

Ort: Kobe Regatta & Athletic Club 2F (in Isogami-Park)

Kosten: 6500 Yen (Mitglieder 6000Yen)

Teilnehmerzahl: bis 50 Personen

Anmeldung: Bis Mittwoch 11. Dezember 2024

Tel: 078-230-8150 E-mail: info@jdg-kobe.org

ドイツ語特別講座のご案内

「新標準語」のリスニングと発音—ドイツ語とアメリカ英語の比較

多くの文化圏において2000年以降公の場で使われる言語に様々な変化が見られるようになり、「標準語」の基準が新しくなったという認識が広まっています。今回のドイツ語特別講座は、ドイツ語とアメリカ英語それぞれの「新標準語」の比較と、そのリスニングおよび発音の練習がテーマです。対象は初心者から、英語やドイツ語を勉強したことはあるものの、テレビ、映画やネイティブスピーカー同士の会話が未だによく聞き取れずリスニングに対して苦手意識がある方まで、お勧めの講座です。

《今回講座の企画内容》

ドイツ語とアメリカ英語を比較するには複数の理由があり、従来の言語教材が取り上げてきたそれぞれの「学習言語」の歴史が非常に似ているのもその一つです。20世紀初頭は「詩」が人気を集め、詩集に見られる言語が理想視される時代でした。第二次世界大戦後にもなお詩集の言語が教材の示すべき「学習言語」の基準でした。しかし1960年代以降はボブ・ディランなどが詩を歌にし、詩とは詩集で読むものではなく、歌詞として楽しむものになりました。やがて各地のテレビ・ラジオ局も詩集に書かれたような言葉を基準とする言語使いを辞めるようになり、より口語的な「テレビ語」が生まれました。2000年以降はインターネットへの動画投稿などができるようになり、一般人がメディアで言葉を発信する場も増加しました。それに伴い、現在は「テレビ語」が一般人にとっても言語使いの基準となり、「テレビ語」が「標準語」の役割を果たすようになったと言われるようになっています。今回はドイツ語とアメリカ英語を比較しますが、実は両言語圏の「新標準語」をもたらした発音における変化は非常に似ており、ほぼ一緒だと言っても過言ではありません。そのため、同時に勉強し、同時に覚えてしまうのが良いのではと考えて、この講座を企画しました。公開講座ですので、一般の方もぜひともご参加ください。

講 師 : シュテファン・トゥルンマー＝フカダ氏(神戸日独協会常任理事)
※元神戸大学教授。現在も神戸大学と関西学院大学にて講義を担当。学術博士。
日 時 : 2024年12月21日(土)(10:00～12:00と13:00～15:00の継続講義)
会 場 : 神戸日独協会
授業形式 : 対面授業
参加費 : 会員2000円／一般2500円
申込締切 : 12月18日(水)

申込先	メール	info@jdg-kobe.org	TEL・FAX	078-230-8150(月～金14～17:00)
-----	-----	--	---------	---------------------------

神戸日独協会「ドイツ語特別講座」について

神戸日独協会は、ドイツ語に対する関心・興味・理解をさらに深めていただきたく、通常授業とは異なる観点からドイツ語に関するトピックを取り上げて、教授経験豊かな講師がコミュニケーションの面から、ドイツ語学の面から分かりやすく説明をする「ドイツ語特別講座」を随時開講しています。この講座はドイツ語の入門・初級者から中級者を対象にした講座です。ドイツ語をこれから学ぼうとする方、現在学習されている方、ブラッシュアップしようとする方に最適の講座です。公開講座ですので、一般の方もぜひともご参加ください。

神戸日独協会会報400号記念特集

神戸日独協会発行の「会報」は本号で400号を迎えました。

1989年8月の創刊以来35年間ほぼ欠かすことなく毎月発行を続けてきました。その間に編集計画・記事執筆・紙面作成・印刷・発送に多くの会員の方々のご尽力をいただけてきました。心より御礼申し上げます。また、原稿の受領・発送用封筒の作成・郵送などを担当していただいている歴代の事務の方々やドイツ語原稿の校閲を長年してくださっている常任理事のシュテファン・トゥルンマー＝フカダ氏に厚く御礼申し上げます。無償にて長年印刷の場をご提供くださいました兵庫県国際交流協会さんにも御礼申し上げます。

400号を迎えるに当たり協会執行部等から予算を組んで記念をするようにとのご提案をいただきました。創刊号から400号までの製本保存等を計画しましたが、協会財政の未だに安定していない時期、これらは450号あるいは500号記念に譲ることとしました。

400号を記念してこれまで或いは現在も会報発行に携わっていただいているの方々より「会報の思い出」のご寄稿をいただきましたのでご紹介をいたします。

会報とともに歩んだ思い出

会長 柘田 義一

まずは創刊時の広報担当理事として発刊に携わった思い出などを記させていただきます。

創刊の2年前の会員へのアンケート調査で会員から会誌の発行が求められていました。1989年6月29日に7名の会員による初編集会議が開かれました。その後数度にわたる編集会議を経て

現在の会報とほぼ同じ体裁で同年8月に創刊号が発行されました。協会主催(後援)行事のお知らせと報告、ドイツに関する情報の提供、会員相互の交流の場の提供などを目的に紙面作りが行われ、現在の会報の紙面構成の原型となっています。

当時は毎月2回協会で編集委員会を開催し、原稿の執筆、原稿のワープロ打ち、割り付け等を行いました。平日の夜間に各人が夜食・お菓子などを持ち寄り、喧々諤々と編集を行ったことが懐かしく思い出されます。現在印刷や発送にご協力をいただいている松下芳春さんと柘田節子さんはその当時のメンバーです。現在のようにパソコンによる送受信が一般的でなかったので、フォント等の書式を統一して少しでも読みやすくするために、一台のワープロを囲み作業を夜遅くまで行いました。当時は原稿を協会のコピー機で印刷をしました。発行部数は現在の倍近くの約450部。当時のコピー機は性能が悪く連続してコピーするとコピー機が熱を持ち紙が縮んでしまい、作業を何度も何度も中断しなければならず、現在の通信技術と印刷との発展には隔世の感があります。私は18号で編集からは一時離れ、さらに阪神大震災後の協会復興に目途が付いた時点で大学での仕事に専念するため常任理事を辞して協会運営から身を引かせていただきました。その後編集委員の入れ替わりがありました。この間に会報の編集作業に携わってこられた会員の方々の献身的なご尽力に深く感謝致します。その数年後再び協会運営に呼び戻され、それとともに再び会報発行に携わらせていただいています。

発刊当時は全国の日独協会の中でも会誌を定期的に、それも月間で、すべての作業を会員のボランティアによって発行している協会はなく、まさにこの分野での先駆けでした。その後多くの日独協会でも会誌が定期的に発行され、カラー印刷のものが多くあり、写真等を多く含むものがあり、その多彩さ立派さには目を見張るものがあります。現在では我々の協会の「会報」は時代遅れ的な感も多分にあります。創刊以来の会員のボランティアによる会員の・会員による・会員のための「会報発行精神」を守っています。これも会員のご理解があつてのことと厚く感謝しております。

最近の情報伝達技術の発達が目覚ましく、この情報化時代に応じた「会報」の果たす役割について考えざるを得ません。情報の速報性、紙面を通じての会員相互の交流、紙面のカラー化等々。これまで綿々と四半世紀以上にわたって続けられてきた「会報」の伝統を維持しながらも、情報の提供は速報性に勝るメール通信に譲るなどの改革の必要に迫られています。今後の「会報像」について会員の皆様のご意見をぜひともお寄せください。

これまで「会報」の編集、印刷、発行及び記事の寄稿、そして何よりも講読いただいた会員の方々に心より御礼申し上げます。

(老齢のために当時のことも多く忘却したため、300号記念特集に寄稿させていただいた原稿を元に加筆いたしました。長文になり申し訳ありません。柘田)

神戸日独協会会報400号によせて とりとめのない話

会員 松下 芳春

神戸日独協会会報が発行されて今回で400号になるとのこと。誠におめでとうございます。

記念特集号に僭越ですが、感想めいたものを書かせていただきます。私が入会した頃は会の活動状況、催事予定等については随時「おしらせ」として郵送で届けられていました。その後現会長

の栞田先生が中心となり1989年に第1号が創刊され、今日まで「神戸日独協会会報」としてこれほど長く、しかも一時期を除いてほぼ毎月発行されていることは貴重で誇れることだと思います。創刊時期はワープロ専用機がようやく個人でも手にすることができるようになった頃です。各人が原稿を持ち寄って協会事務室で入力。あるいはコピペではなく糊とハサミを使っての手作業で切り貼りして印刷原本を作成していました。その頃は個人がメールを使うことがまだ難しかったため実際に事務室に集まって作業していました。その後ウィンドウズパソコンで原稿が送信できるようになり一部省力化できるようになりました。

1995年の阪神淡路大震災で神戸国際会館にあった事務室、図書室が使用できなくなりその後数度移転を余儀なくされました。大変困難な時期にも関わらず情報発信されていました。ドイツ日独協会からの支援、激励のメッセージが掲載されていたことを覚えています。神戸日独協会の活動再開まで物心両面で苦労が絶えなかったと想像します。

会報だけではなく「神戸日独協会周年記念誌」・「神戸での日独交流150年」等の数多くの冊子も発行されています。会長・理事・編集委員はじめ会員の方々の懸命な努力の賜物です。会報の発行には、記事の募集、原稿作成、編集、用紙の準備、印刷、会報の搬送等々発送までにかかなりの労力、費用が必要です。多くの会員の関わりがあって続いてきたことは間違いありません。あらためて今回これまで関わってこられた方々を思い出しています。

私はメールでも会報を見ますが紙の会報もまだ捨て難いとの気持ちで発送のお手伝いをしています。8月の会報に「会報の電子メールへの切換え」の願いがありました。パソコン、タブレット、スマホを多くの人が日常使用する現在、会報が形を変えても末永く発行され情報発信が続いていくことを願っています

会報の思い出

会員 原田 耕作

会報400号の発行、本当におめでとうございます。おそらく全国の日独協会でも、これほど長期間にわたって、且つ毎月、会報を発行し続けておられる協会はないでしょう。

私が会報発行のお手伝いに参加し始めたのは20年近く前のことですが、当時は実行委員会があって、そのメンバーが会報の編集から印刷発送までを分担してやっていました。私と2名のメンバーが印刷の担当でした。印刷はHAT神戸にある兵庫県国際交流協会の印刷室で、無料でさせてもらっていました。少し面倒だったのは重い用紙の持込みでしたが、途中からは会長がお手伝いいただき、会長のお車での搬送となり助かりました。

会報には、これも毎月開催されていますドイツ語談話室のプロトコル(議事録)和文・独文が掲載されており、こちらの方も10月に第240回目となりました。よく続いたものです。

今後の会報発行に関して私が少し懸念しますのは、実行委員会もなくなり、会報の原稿から編集発行まで全て会長がお一人でなさっていることです。印刷・発送は有志の方が手伝っておられますが、やはり会報担当のメンバーを組織立てて決めてゆくシステムがいるのではないのでしょうか。

神戸日独協会会報 400 号の発刊に思う

会員 中島 英樹

会報発刊400号おめでとうございます。

創刊から現在まで35年の歴史を重ねてきたと聞きます。私は「シュタムテッシュ」や「会員による料理教室」などに関わらせていただき、会報に案内文や参加者の方々の感想文を掲載させていただきました。また、会報の印刷や発送作業に参加した時には、当初、コピー機や折り曲げ機など慣れない作業に苦戦しました。それも懐かしく思い出されます。

今は、毎月の会報を読む時や、発送作業の際の会員の方々とのかかわりが、私の平凡な老後の生活の刺激になりうれしく思っています。

今後、450号更には500号と発行回数を重ねられることをお祈りしています。

神戸日独協会会報の思い出

会員 柘田 節子

神戸日独協会会報400号達成、誠におめでとうございます。

1989年当時世の中にはパソコンも携帯電話もない時代で専ら固定電話と FAX が伝達手段でした。黒崎勇先生と柘田義一先生のお声掛けで、協会からの情報発信として毎月会報を発行することとなり、ドイツ語クラス受講生の編集ボランティアが集まりました。私たち編集ボランティアはドイツ大好きな会員の方々と共にドイツをもっと深く理解したいとの熱い思いで携わりました。編集ボランティア各人がドイツについての情報等を自分の足で探し集めて持ち寄り何度も編集会議を行い、定規と鋏とスティックのりを駆使して切り貼りして最終原稿となりました。更には当時の印刷機は印刷枚数が多くなると機械が熱くなり紙に皺が多く入るためにだましまし時間をかけて印刷をする必要がありました。そのような状況の中ででき上がった第1号の会報を手にした時は喜びと嬉しさで達成感で、後日皆でお祝いをしたことを今でも懐かしく覚えています。

これまで約40年間にわたり協会活動に携わってこられた会員の方々や事務の方々のご協力とご支援で毎月の会報発行が続けられています。毎月の原稿締切までに会報原稿を依頼し書いてくださる方、新しい企画や集まった原稿を適宜レイアウトし今後の予定行事等々をも確認し紹介をまとめてくださり、朝早くから会報印刷と発送に携わってくださる方々がおられます。これからも「ドイツ大好きな会員の方々と共にドイツをもっと深く理解したい」との初心を大切に毎月の会報を届けるために私も微力ながら携わっていきたいと思っています。

会報400号記念を迎えて

会員 岸田 貴子(L1クラス受講)

1989年8月創刊以来35年に渡って続けてこられた会報が無事400号を迎えられ誠に喜ばしい限りです。この会報は神戸日独協会独自の活動であり、2年前奈良日独協会と合同での遠足の時会報をみた奈良の会員の方がずいぶん驚かれているのが印象的でした。

私自身数年前から身近なことで社会貢献できればとの思いから印刷に参加させていただいています。中には創刊号当初からボランティア活動をずっとされている方もおられます。

限られたコストと効率を考慮し数年間に印刷場所を3回変わっています。初めは兵庫県国際交流協会の作業室。ここではロッカーもレンタル可能であったため、毎回200～250部数の印刷用紙A4、A3を柘田会長が持ち運びし印刷に備え、また印刷したものを持ち帰りました。作業室では、印刷機とは別の折り機、これは旧式のネジ式で表裏の間違いや微妙な用紙ズレが生じたり、さらに特徴なのは1回1回パシッパシッという大きな機械音でした。やがてコピー機の老朽化に伴いひょうごポランタリープラザへ移りました。ここでは数か月と短く、ロッカーがなく毎回印刷用紙を三宮から協会へと歩行と電車で持ち運びされていました。ここでは印刷機も折り機も静かで早く、困った時には対応が丁寧でした。しかし持ち運びがネックとなり、現在は三ノ宮駅近くのキンコーズで行っています。ここは印刷用紙も備えられセルフ印刷を行い、料金を支払うのが特徴です。印刷と同時に折り設定も可能です。金曜は会員割引のためで利用させてもらっています。

ドイツ語を習いたく協会加入し、毎月送られてきた会報からは協会活動、ドイツ時事、またドイツ留学生の現地情報、ドイツ家庭料理へと多岐にわたっています。ドイツへ行けなくとも文字からくる身近なドイツ情報にとっても暖かさを覚えています。これは情報収集から始まり、柘田会長の執筆、作成、発送と協会会員の協力のもと成り立つものだと思います。会報を通してひとりひとりが繋がりを感じていただければ幸いです。

今後の会報について

1989年の創刊以来発行を続けてきました「神戸日独協会会報」について、最近の目覚ましい情報伝達技術の発達やスマートフォンやタブレットの普及による情報化時代に応じた「会報」の果たす役割、そしてこれまで発行を支えてきた会員によるボランティアの確保など、昨今会報の発行をめぐる環境に著しい変化が見られるようになりました。

このような発行の環境変化は5年ほど前から顕著になり、理事会や実行委員会(現在の企画委員会の前身)での検討及び会報発行についての会員アンケートの実施(2018年5月)を行ってきました。これらを踏まえて、1)ホームページとの記事や役割での棲み分け、2)会報の発行回数と発行月、3)会報発行の運営方法について、会報340号にて報告しました。

1)については、会員への速報性が求められる情報や写真などの情報の発信は「ホームページ」が担い、活動報告や会員からの寄稿の発信は「会報」が担う。

2)については、会報の発行は隔月とする。

3)については、「広報委員会」を設置して、会報の発行とホームページの記事更新を行う。会報の編集、印刷、発送はボランティアの協力を得る。

ホームページ整備更新の遅れ、コロナ禍等のために隔月ではなく毎月発行を続けています。「広報委員会」は未だに設置できずに相変わらず記事執筆、編集、印刷、発送はボランティアの協力を頼っています。

最近会報発行に「郵送料の高騰」という新たな問題が生じています。近年発送・郵送料の軽減と速報性等から「メール受信」を数度にわたり会報にてお願いしてきました。現在のメール受信者は73名・10社です。改めて多くの方のメール受信をお願い申し上げます。メール受信ができない方には個別対応をさせていただきます。

これまで多くの会員の方々から多種多様なご寄稿をいただきました。ドイツからも滞在中の会員や神戸滞在経験のあるドイツ人の方々からもご寄稿をいただきました。今後とも会員の広場欄にご寄稿くださるようお願い申し上げます。

編集を担当している者として、昨今の記事には単調さが見られます。これまでは「ドイツについてこんなことが知りたい」という会員及び編集委員の声をもとに種々の特集或いは連載を企画してきました。例えば、連載「神戸日独交流人物伝」、「ドイツマスターのいる店」、リレーエッセイ「ドイツ語学習上達法」、シリーズ「ドイツ、わが愛」、「ドイツ新事情—Deutsche Welle の記事から—」等々。個人では難しいことも同好の者が集まればできるものです。ぜひとも積極的に編集にご参加いただいて、紙面の活性化にご協力ください。

近年、特にコロナ禍により日常生活、勤務形態、人との交流等々様々な面で大きな変容が起きました。このような時代だからこそ人と人を結ぶものが必要なのではないのでしょうか。神戸日独協会では「ドイツに関心があり、好きで、もっと知りたい」という人々の架け橋として会報を充実させ発行を続けます。それには会員皆様のご理解とご協力が欠かせません。今後とも会報発行に変わらぬご協力をお願いいたします。
(会長 柘田義一)

主催行事報告

ドイツワインイベントに参加して

会員 宮本 眞理子

長らく開催されなかったワイン会が11月9日に開催されました。

以前は「ワインクルーズ」や「ワイン講座」などドイツワインを楽しむ機会がたくさんありました。しかしコロナ禍により開催されることなく現在にいたりました。

今回は久しぶりに開催ということで友人も誘って「ドイツワインイベント」に参加しました。

まずは今回ご協力をいただいた株式会社ドイツ商事 ローテ・ローゼ 松田様のドイツワインについてのお話から始まりました。

今回お持ちいただいたワインは5種類。そして「ロイン」さんの美味しいおつまみやカナッペ、「イスズベーカーリー」さんのフランスパンと役者が揃いました。

今回のワインリストの1番目はワインショーレで皆さんと乾杯！さあ、おつまみもいただきましょう。

あとは、自由にワインを堪能できましたが、私はワインリストに従って順番に飲みすすめました。

2番目は地球温暖化対策の「PIWI品種」。辛口でおつまみにあいます。農薬散布を80%削減する効果のある環境にも身体にもやさしい品種です。

3番目は黄色いマスカット、とてもフルーティで薫り高いワイン。友人はこちらのワインがおいしいと言っていました。

4番目は今回唯一の赤ワイン。赤ワインの苦手な私ですがドイツ産の赤ワインはなぜかいただいても大丈夫なんです。オーク樽熟成のせいかな薫り高くとてもおいしいワインでした。

最後5番目はデザートワイン。果実味の甘く豊かな完熟の味わいで、口に含めば至福の時でした。もちろんおかわりに行きましたよ。

あっという間の2時間で最後は全員で記念撮影をしてお開きとなりました。

今回のドイツワインイベントにご協力いただきました松田様、お手伝いに来ていただいた松田様のドイツ人のご友人、栞田会長ご夫妻、準備をしてくださった会員、今回参加してくださいました皆様に感謝いたします。

会員の広場

このコーナーは、会報を通して会員相互の交流をしていただくための「広場」です。投稿をお待ちしています。今月は休載です。

投稿規定：1000字程度(字数を厳守)

MSPゴシック12ポイントの添付データ(ワード)を毎月第4月曜までにメールで

ハントアルバイトの会(ポーセラーツ)

手仕事による製品作りのお好きな方の「会員サークル ハントアルバイトの会」が活動しています。ご参加をお待ちしています。

ハントアルバイトの会

クリスマスと正月のためのクリップと小額の作成

ハントアルバイトの会12月定例会はクリスマスの小額と正月のクリップを作成します。ぜひともご参加いただき、クリスマスと正月をお手製の作品でお飾りください。

- 講師：堀田真美子さん
日時：12月1日(日)14:00~16:00(定例日ではなく変更しています)
場所：神戸日独協会
会費：1000円(材料費)
参加条件：会員以外にも多くの方のご参加をお待ちしています。

申込先	メール	info@jdg-kobe.org	TEL	078-230-8150(月~金14~17:00)
-----	-----	--	-----	---------------------------

ドイツ歌声サロン

この会は、ドイツ歌曲・オペラの名曲、ドイツの流行歌やドイツ映画音楽、ビアソングのみならずドイツの家庭や集会で広く歌われ、日本でも親しみ歌い継がれてきたドイツの愛唱歌をも採り上げています。3ヶ月でドイツ語での歌3曲をマスターします。

12月は前月に引き続き、Stein Song(乾杯の歌)、Das gibt's nur einmal(ただ一度だけ)、An die Freude(歓喜の歌、ベートーヴェン交響曲第9番第4楽章で歌われる第一主題)を歌います。

講師：岩島 佳子さん
日時：2024年12月7日(土) 13:30~15:00
場所：神戸リガッタ倶楽部
参加費：2000円
参加条件：会員以外にも多くの方のご参加をお待ちしています。

ドイツ語の歌を主として歌いますが、ドイツ語が初めての方もぜひご参加ください。

申込先	メール	info@jdg-kobe.org	TEL	078-230-8150(月~金14~17:00)
-----	-----	--	-----	---------------------------

第240回 ドイツ語談話室

日時：2024年10月19日(土) 14:00~16:00
場所：神戸日独協会
テーマ：近所付き合い

今回の司会は原田耕作氏が担当し、テーマの近所付き合いについて話した。司会者の住んでいるマンションには440軒の家族が住んでいて、マンション内にはいろいろな趣味のグループが活動している。例えば、詩歌の会、お話の会、DIYの会、ガーデンの会、等々。司会者はその内のガーデンの会に入っていて、庭や花壇の保守、敷地内の雑草の除去等の活動をしている。こうした活動を通して、良好な近所付き合いが保たれている。

以下に参加者の皆さんの発言を一部紹介する。

- 地域の自治会で、ゴミを出す場所を決めるが、住民側は、自宅の付近はいやだ、と言ったエゴがどうしても出る。
- 近所付き合いの話となると、厳密には、自分に最も近い隣人は夫である。最も近い人との付き合いが一番大切になる。
- 半世紀も前のことになるが、勤めていた会社の社員用住宅に、結婚したてのころ住んでいたが、周りの皆さんが大変親切な方々で、とても気持ちよく暮らせたのを懐かしく思い出す。今でも一部の方とは親しくさせてもらっている。
- やはり半世紀以上前の話だが、新婚当初、2階建て10軒が暮らす長屋に住んでいたが、この長屋の皆さんがとても親切な人たちで家族のような付き合いだった。長屋の建物の方は、壁など薄く、お隣の話し声も筒抜けだったのを思い出す。
- 夫の勤務の関係で、日本各地に住んだが、どの地でも近所の皆さんはとても親切で優しかったのを思い出す。今は、加古川の駅の近くにあるマンションに住んでいるが、近所の方々は、皆さんやさしく親切で、楽しく暮らしている。

今後のドイツ語談話室の予定

第242回 2024年12月21日(土) 14~16:00 テーマ：アメリカと日本における選挙
会場は神戸リガッタ倶楽部レストラン(1階)です。

Protokoll der 240. Deutschen Gesprächsrunde

Zeit: Samstag, 19. Oktober 2024, 14 bis 16 Uhr.

Thema: Nachbarschaft

Dieses Mal hatte Herr Kosaku Harada die Gesprächsleitung. Thema war die Nachbarschaft. In der Wohnanlage, in der der Gesprächsleiter lebt, wohnen 440 Familien. Es haben sich Gruppen gebildet, die verschiedenen Hobbys nachgehen. So gibt es Gruppen, die sich der Poesie widmen, Gesprächsrunden, DIY-Gruppen, Gärtnereigruppen, usw. Der Leiter ist Mitglied in einer Gärtnereigruppe. Er hilft bei der Pflege des Gartens, der Blumenbeete sowie bei der Unkrautbeseitigung auf dem Gelände. Durch diese Aktivitäten werden gute nachbarschaftliche Beziehungen gepflegt.

Hier einige der Wortmeldungen zum Thema :

-Die Anwohnervereinigungen entscheiden, wo der Müll für die Entsorgung gelagert wird, aber niemand möchte einen Müllplatz bei seinem Haus haben.

-Wenn wir von Beziehungen zu Nachbarn sprechen, so sagt eine Teilnehmerin, sei ihr Mann ihr nächster Nachbar und deshalb die wichtigste Beziehung für sie.

-Vor einem halben Jahrhundert, als eine Teilnehmerin heiratete, wohnte sie zuerst in einer Angestelltenwohnung des Unternehmens, für das ihr Mann arbeitete. Sie erinnert sich gern daran zurück, denn alle herum waren sehr freundlich und es war sehr angenehm dort zu leben. Mit einigen ist sie noch immer eng befreundet.

-Ein anderer Teilnehmer erinnert sich ebenso an die Mietwohnung, in der er lebte, als er vor einem halben Jahrhundert heiratete. Es war ein zweistöckiges Haus. Die Bewohner waren alle freundlich, fast wie eine Familie. Die Wände waren so dünn, dass man die Leute nebenan reden hörte.

-Eine Teilnehmerin lebte, aufgrund der Arbeit ihres Mannes an verschiedenen Orten in Japan. Überall hatte sie freundliche und zuvorkommende Nachbarn. Nun lebt sie in einer Wohnung in der Nähe des Bahnhofs Kakogawa. Auch dort sind alle freundlich und hilfsbereit. Sie lebt gerne dort.

Nächste Treffen:

Samstag, 21. Dezember 2024, 14 bis 16 Uhr. Thema: Wahlen in Japan und den USA

ドイツ新事情 —Deutsche Welle の記事から—

信号機連合瓦解 (Ampelkoalition zerbrochen)

理事 押尾 愛子

11月6日に信号機連合と呼ばれるドイツの連立内閣の瓦解が大きく報じられました。ドイツの政党はそれぞれシンボルカラーを持っていて、シュルツ首相率いるSPD(ドイツ社会民主党)は赤、ハベック経済・気候相が所属する Grüne(緑の党)は緑、リントナー前財務相が率いてきたFDP(自由民主党)は黄色で、この三党を合わせると赤緑黄で信号機連合と呼ばれていました。SPDと Grüne はウクライナ支援や環境対策など方針が似ており、この二党で国会の過半数を占めれば問題ないのですが過半数に至らず、FDPも連立に加える形で内閣が発足しました。2021年9月の発足当時は Grüne もFDPも、視点や考え方の違うもの同士の話し合いを通じて豊かになると発言していましたが、実は意見のぶつかり合いの連続で、機能不全に陥っていました。中でも大きく意見の食い違ったのが財政問題です。ロシアによるウクライナ侵攻以後、ウクライナ支援のみならず、ドイツ自身の防衛強化の必要性も高まってきました。加えてドイツの経済は停滞しており、経済再建も必要に迫られています。そのためには財源が必要ですが、FDPのリントナー氏は節約路線をとり、シュルツ首相がリントナー氏に、ドイツの厳格な債務ルール(Schuldenbremse)の緩和を望んでも同意せず、遂にシュルツ首相がリントナー氏を解任するに至りました。それと同時に全部で4人いたFDPの閣僚のうち3人が退任、1人はFDPを離党して閣僚に残ることになり、こうしてFDPが連立を離脱して、三党連立は終わりを告げました。

この先どうなるのでしょうか？ 野党のCDU/CSU(キリスト教民主・社会同盟、シンボルカラーは黒)は、今や過半数を持たない二党連合は今すぐにもでも信任を問うべきだとシュルツ首相に迫り、CDU党首のメルツ氏は、次のドイツ連邦首相の座を狙っています。シュルツ首相は、年内はできる限り差し迫った仕事をして、信任を問うのは1月にしたいと述べています。国会で信任投票が行われて、シュルツ首相が信任を得られなかった場合、ドイツの基本法では、新たに選挙を実施する手続きに入り、遅くとも3月末までには選挙が行われることとなります(もともとは2025年9月に行われる予定でした)。

こんなごたごた続きでシュルツ首相の政府はドイツ連邦共和国の歴史の中で一番不人気だとか。個人的には、シュルツ首相は運が悪くて気の毒という感じもします。ロシアとの石油パイプラインが完成したと思ったら、ロシアのウクライナ侵攻により、できたばかりのこのパイプラインは一度も使われず、電力供給確保のために、一旦廃止を決めた原子力発電所や火力発電所を当面使わざるを得なくなるし、地球温暖化防止のために環境対策をとればとるほど、自動車をはじめとするドイツの産業は落ち込むという状況です。

さて、この先どうなるか、注視しましょう。

Deutsche Welle: Warum Deutschlands Ampelkoalition zerbrochen ist(06.11.2024)及び Deutschland nach dem Ampel-Aus: Wie geht es weiter?(07.11.2024)より。

(このコーナーは、神戸日独協会ドイツ語講座講読クラスLN(火曜日)の受講者が授業で読んだ記事の中から興味深い up date なニュースを随時会報にて紹介しています)

12月の企画委員会

この会は協会と会員との交流のための会です。協会の事業について種々の企画をご提案いただき、協会の活動は活発化しています。

ぜひとも参加し、協会の運営や企画などにご意見をください。

日時：2024年12月14日(土)15:00～17:00

場所：神戸日独協会

話題：12月以降の事業企画、クリスマス祝賀会の準備。

※ご出席いただける方は、メール・電話にてご連絡ください。当日参加も可。

お知らせ

会報11月号の発送遅延について

紙面編集の都合にて発送が一週間遅れました。会員の方々にはご迷惑をおかけしましたことをお詫び申し上げます。事情をご理解の上、遅延についてご海容ください。

年末・年始について

12月27日(金)から1月8日(水)まで閉室します。

※閉室期間中、催し等のお申込み・お問合せはメール・FAXでお願いいたします。

Das Büro der JDG Kobe ist von 27. Dezember bis zum 8. Januar geschlossen.

会報ボランティア

次回の印刷と発送は12月20日(金)の予定です。ご協力をお願いします。

印刷：キンコーズ三宮店(神戸市中央区雲井通4-2-2マークラー神戸ビル)10:30～

発送：神戸日独協会にて、12:00～

お手伝いいただける方は事前にご連絡ください。

行事等の写真について

会報には誌面の都合上、写真等は掲載できませんが、ホームページ・SNSではご覧いただけます。



ホームページ
Homepage



インスタグラム
Instagram



X
Twitter

イベントスケジュール

日時	催し	会場	申込〆切
12月1日(日) 14:00~16:00	ハントアルバイトの会 クリスマス・正月準備特別講座	神戸日独協会	当日参加可
12月7日(土) 13:30~15:00	ドイツ歌声サロン	神戸リガッタ倶楽部	当日参加可
12月14日(土) 15:00~17:00	企画委員会	神戸日独協会	当日参加可
12月15日(日) 17:00~20:00	クリスマス祝賀会	神戸リガッタ倶楽部	12月11日(水)
12月21日(土) 10:00~15:00	ドイツ語特別講座	神戸日独協会	12月18日(水)
12月21日(土) 14:00~16:00	ドイツ語談話室	神戸リガッタ倶楽部	当日参加可

各催しの申込み・お問合せは下記へ

☎️ : **078-230-8150** もしくは ✉️ : info@jdg-kobe.org

神戸市中央区八幡通2-1-20 神戸リガッタ・アンド・アスレチック倶楽部1F

神戸日独協会